

マリ共和国の保育・幼児教育に関する調査報告 その1

— 首都バマコの私立保育所・幼稚園の事例より —

Report on the Early Childhood and Childcare in Mali

次世代教育学部こども発達学科
後藤 由佳
GOTO, Yuka
Department of Child Development
Faculty of Education for Future Generations

外務省
在マリ日本国大使館
サリフ サコ
Salif, SACKO
Ministry of Foreign Affairs of Japan
Ambassade du Japon au Mali

キーワード：就学前教育，保育環境，保育方法，多文化教育，異文化理解

I. はじめに

筆者は、今世紀初頭の2001年に、初めて西アフリカのマリ共和国を訪れ、約8カ月間現地に滞在し、当時唯一の芸術学校であったマリの国立芸術学院 (Institut National des Art) にて彫刻制作を学んだ。参与観察調査及び創作活動は、マリの首都バマコを中心に、2001年8月上旬～2002年3月下旬、および2002年9月の二度にわたって実施した。その後、造形美術、保育・幼児教育の分野を中心に、マリで創作活動をはじめ、現地視察・調査、大学の海外研修等で学生引率を行ってきた。

今回の視察と聞き取り調査（以下聞き取り調査と表示）は、首都バマコの私立保育所 (Creche) ・幼稚園 (Jardin d'enfants) において、2018年12月27日～2019年1月3日に実施した。本稿は、筆者らが実施したバマコの現地調査の成果を基に報告する。

II. 調査対象と歴史的概要

マリは、西アフリカの内陸国で、南部を西から東へニジェール川が、西部を南北にセネガル川が流れている。国土総面積は約124万km²、日本の約3.3倍で、北部はサハラ砂漠の一部である。人口は19,007,690人 (2018年現在) で、バンバラ族、マラカ族、フラニ族など、23以上の民族で構成されている。

近年、多くの発展途上国では、農村出身者の都市への集中や、高い出生率と乳幼児の死亡率の低下に伴い、都市人口が爆発的に増加している。本調査対象と

するマリ共和国でも、独立以来農村の出身者の都市への流入も加え、都市人口が急激に増加し、その大部分は南西部の首都バマコに集中している。ニジェール川上・中流域地方は、古くは3、4世紀頃から黒人国家が形成されたといわれ、次々に王国が栄えたが、マリは1904年にフランス領西アフリカ植民地の一部となった。しかし1960年9月22日、マリ共和国としてフランスから独立をはたし、バマコは首都となった。

首都バマコは、山に囲まれた平原で、マリの南西部に位置し、ニジェール川を挟んでその北側の7,000ha、南側の12,000haに広がっている。1965年の国勢調査によると、バマコの人口は当時165,500人であり、街は、旧市街地、新市街地、商業地、行政地、居住地、郊外に分類されている (SACKO,1999)。しかし、植民地から独立後、現在にいたるまで急激に都市化しているものの、現実の都市の広がりや人口増加に追いつかず、2018年のバマコの人口は1,810,000人を超えた。独立後の53年間に、首都の人口は1,644,500人の増加、約11倍にも増えた。

マリの初等教育の就学率は2001年に62.5%であったが、2018年には75.6% (世界銀行) となった。しかしながら初等教育に入学した児童が最終学年まで残る割合は2011年～2016年に61.5%、前期中等教育の就学率は30.5%である。さらに、就学前教育の就学率については、4.0% (ユニセフ) である。また1人当たりの国民総所得 (GNI) について、2001年に300 USドルであったが、2018年には840 USドル (世界銀行) となり、この17年間に、国民総所得は約2.8倍にも増えた。

Ⅲ. 結果

今回、初めて視察と聞き取り調査を行った保育所・幼稚園（COMPLEXE - SCOLAIRE - Louise - Taillet Creche - Jardin d'enfants - Primaire）は、首都バマコのBanankabougouにて、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校を有する私立の総合学園である（図1, 2）。保育所・幼稚園は、就学前教育のため義務教育ではなく、母語中心の家庭環境とは異なる公用語のフランス語を基本に、教育及び保育が展開される（図3）。幼児期よりフランス語に対する感覚や言葉で表現する力を養い、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに配慮されている。

全園児数は110人程度、0-2歳クラス（crèche section）は子どもが14-15人、保育士は4人、3歳クラス（petit section）のみ二クラスあり、一クラスに子どもが20-23人、教師は2人、4歳クラス（moyen section）は子どもが20-23人、教師は2人、5歳クラス（grand section）は子どもが20-23人、教師は3人であった（図4, 5）。開園曜日は、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の週5日で、通常の保育時間は、朝8時から11時30分、延長保育は降園から17時までである。園と家庭との連携をはかるため、ポートフォリオ等を用いた養護及び教育が行われていた。

Ⅳ. 考察とまとめ

本稿の目的は、首都バマコの私立保育所・幼稚園に着目し、筆者らが実施した就学前教育の現地調査の結果を基に報告することである。

アフリカ社会における教育は、19世紀以降の植民地化の過程で、西欧からやってきた植民者やキリスト教宣教師によってもたらされた。独立後、マリのみならず多くのアフリカの国々が、植民地の境界線を国境にしたことから、国内が多民族多言語になり、国内の統一のため、マリでは旧宗主国のフランス語を公用語とした。

これまで首都バマコでは、個人の住宅に複数の世帯が集合居住を行う場合も多く、同居親族等による家庭での子育てが可能であった。しかしこの数年、居住形態、就労形態の多様化に伴い、保育を必要とする保護者が増え、それに伴い保育所・幼稚園が増加した。また保護者は、保育所・幼稚園に子どもの養護にくわえ、母語中心の家庭保育とは異なる公用語のフランス語による教育に期待していた。教育を近代化と経済発

展への最有力手段としてみなし、教育熱がますます高まっているようであった。

保育所・幼稚園における専門性を有する職員によるフランス語での就学前教育が、初等教育およびその後の「エリート養成」への基盤になっていると考える。グローバル化の波が押し寄せ、アフリカもまた大きく変化し、人々の教育への認識と期待はより一層高まっていた。今後は、保育・幼児教育の実践活動を含め、保育の質の向上について、今日マリの新たな状況をたどることを課題としたい。

謝辞：

本稿をまとめるにあたり、貴重なご教示とご協力をいただきました皆様に、お礼を申し上げます。今世紀初頭の2001年に、初めて西アフリカ・マリ共和国を訪れ、その後、造形美術、保育・幼児教育の分野を中心に、マリで創作活動をはじめ、視察、調査、大学の海外研修等にて学生引率を行ってきました。現地調査の際、マリの多くの人々のご支援があつてこそ、安心して滞在が可能となりました。断続ではありましたが、これまで20年間、教育・研究を実施することができました。とりわけ、京都精華大学Oussouby SACKO学長には、異文化研究を進めるにあたり、大学院時代より現在まで心温かくご指導いただきました。深く感謝を申し上げます。

引用参考文献・サイト

- 1) Oussouby SACKO「バマコの中庭型在来住宅の『集合住宅化』と中庭での生活行動の研究」
京都大学大学院学位論文, pp.1-20, 1999年
- 2) 後藤由佳「西アフリカ・マリ共和国における幼稚園教育－首都バマコ私立幼稚園の事例より－」
愛媛女子短期大学紀要第21号, pp.65-71, 2009年
- 3) 後藤由佳「西アフリカ、マリ共和国における芸術教育－国立芸術学院と造形美術－」
名古屋大学人文科学研究第33号, pp.21-26, 2004年
- 4) 小田英郎, 川田順造, 伊谷純一郎, 田中二郎, 米山俊直 監修『アフリカを知る事典』平凡社, 2010年
- 5) 日本アフリカ学会編『アフリカ学事典』昭和堂, 2014年
- 6) 外務省マリ共和国 (Republic of Mali) 基礎データ www.mofa.go.jp/mofaj/area/mali/data.html
(最終閲覧2019.12.21)
- 7) 国際協力機構 www.jica.go.jp

(最終閲覧2020.01.19)

8) 世界銀行 data.worldbank.org

(最終閲覧2020.01.19)

9) 総務省統計局「世界の統計2019」

(最終閲覧2020.01.19)

10) 日本ユニセフ協会「世界子供白書2017」

(Japan Committee for UNICEF) www.unicef.or.jp

(最終閲覧2020.01.19)



図1 園舎 (出典：後藤由佳2019)



図4 保育室 (出典：後藤由佳2019)



図2 園庭 (出典：後藤由佳2019)



図5 保育室の壁面 (出典：後藤由佳2019)

PRESCOLAIRE LOUISE TAILLET 2018-2019

EMPLOI DU TEMPS

	Lundi	Mardi	Mercredi	Jeudi	Vendredi
7h30-8h00	Accueil des enfants				
8h00-8h30	Petites chansons de motivation				
8h30-8h45	Appel des enfants				
8h50-9h10	Graphisme	Langage	Activités	Maths	Sport
9h10-9h30	Gâtier	Toilette			
10h-10h30	Recréation				
10h30-10h45	Lecture	Jeux libres	Histoire Racontée	Coloriage	
10h45-11h30	Poème ou Dessin	Chant et lecture	collage		
11h30-12h30	Repas de midi				
12h30-14h30	Sieste				
14h30-16h00	Rechange et Gouter				
16h00-17h00	Animation	Pédagogiques	Et départs		

図3 保育の内容 (出典：後藤由佳2019)